変額保険
グローバルミックス

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

月次運用レポート

2009年5月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式　50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 （特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ファンドマネジメント・チームが行います。）	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A） （適格機関投資家私募）	アクサ・ローゼンバーグ 証券投信投資顧問株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B） （適格機関投資家私募）	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A） （適格機関投資家私募）	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A） （適格機関投資家私募）	
債券　50%		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B） （適格機関投資家私募）	

※　特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※　特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2009年5月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 ［ 2009年5月 ］

【日本株式市場】

日本株式市場は、堅調に推移しました。TOPIX（東証株価指数）は前月末比＋7．18%上昇の897．91ポイントで終了しました。
上旬は、世界的な景気底入れと金融システム安定化への期待を背景に大幅に上昇して始まりました。その後、高値警戒感による利益確定売りに加え、円高への反転や新型インフルエンザの感染拡大を嫌気した売りで反落する局面も見られました。月末にかけては、円高傾向が一服したことや日米の経済指標について改善傾向が概ね確認され、景気後退の最悪期は過ぎたとの見方から底堅く推移しました。
業種別（東証33業種）では、原油価格の高騰を受け「鉱業」（前月末比+24．18%）が最も上昇した一方、新型インフルエンザの拡大懸念から「空運業」（同▲2．60%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

外国株式市場は、堅調に推移しました。
米国株式市場は上昇し、NYダウは前月末比＋4．07%上昇の8，500．33ポイントで終了しました。4ヶ月連続となる米4月ISM製造業景況指数の改善や米大手金融機関が資産査定（ストレステスト）を無事に通過したことなどを受けて、上昇して始まりました。その後は、米財政赤字に対する懸念などを嫌気する一方、米5月消費者信頼感指数の改善などが追い風となるなど、一進一退の展開となりました。
欧州株式市場も上昇し、市場別騰落率は、英FT100は前月末比＋4．11%上昇、仏CAC40は同＋3．73%上昇、独DAXは同＋3．59%上昇となりました。独5月ZEW景況感指数が大幅に改善するなど、欧州での景気底入れ期待を背景に、底堅く推移しました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、揉み合いながらの推移となり、新発10年国債利回りは1．480%となりました（前月末は1．430%）。
中旬にかけて、世界的な株高などを背景とした債券売りと、2009年1～3月期のGDP速報値が戦後最大の減少率となるなど軟調な経済指標を受けた債券買いが交錯し、1．4%台での揉み合いが続きました。月末にかけては、大量増発懸念などから債券が大きく売られる展開となった海外市場の流れを受けて、一時1．5%まで上昇しました。
日銀は、政策金利を据え置き、年0．1%を維持しました。
無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

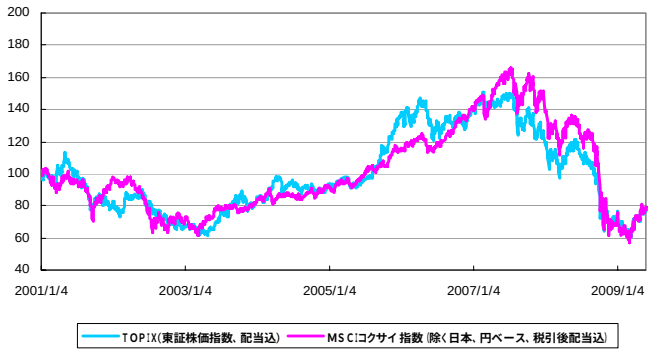
外国債券市場は、投資家のリスク回避傾向の後退や債券需給関係の悪化懸念を背景に、概ね債券が売られる展開となりました。
米国債券市場は、過去最大規模の国債発行などによる米国債格下げ懸念や米財政悪化懸念などから、月末にかけて債券が大きく売られる展開となりました。米10年国債利回りは、当月末3．459%となりました（前月末は3．119%）。
欧州債券市場は、景気底入れ期待による株高や国債の大量発行などを背景に債券売りが優勢となりました。独10年国債利回りは、当月末3．589%となりました（前月末は3．178%）。
FRB（米連邦準備制度理事会）は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECBは政策金利を0．25%引き下げ、年1．00%としました。

【外国為替市場】

外国為替市場は、中旬にかけて米財政悪化懸念などにより米ドルが円やユーロに対して下落しました。その後は、日本の外貨建て投信設定などにより円が米ドルやユーロに対して下落しました。
米ドル／円相場は、中旬にかけて大幅に円高となり、94円台まで円が上昇しましたが、その後ドルが買い戻される展開となりました。円は対ドルで前月末比1円30銭（+1．33%）円高ドル安の1ドル＝96円48銭となりました。
ユーロ／円相場は、ユーロ圏2009年1～3月期GDP速報値が予想以上に悪化したことなどを受けて、一時127円台まで円が上昇する局面もありましたが、概ね円安地合いの推移となりました。円は対ユーロで前月末比4円47銭（▲3．43%）円安ユーロ高の1ユーロ＝134円65銭となりました。

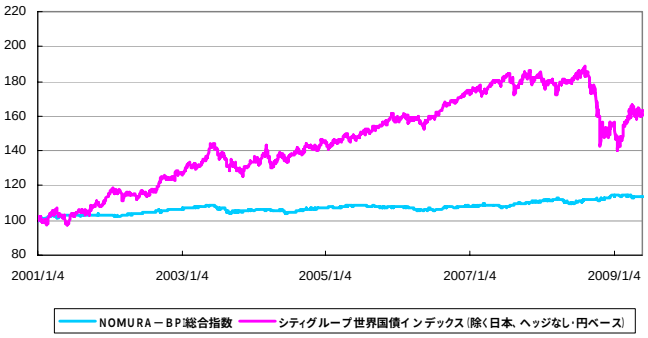
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

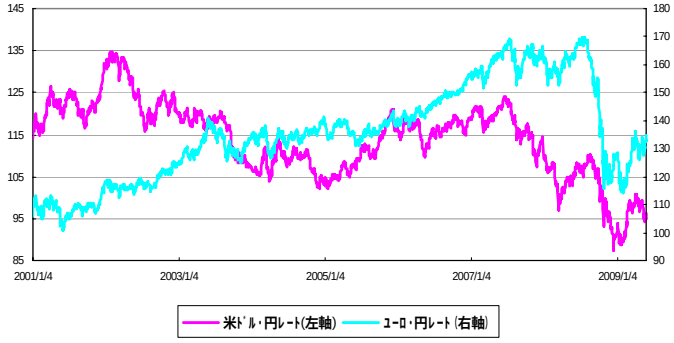


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

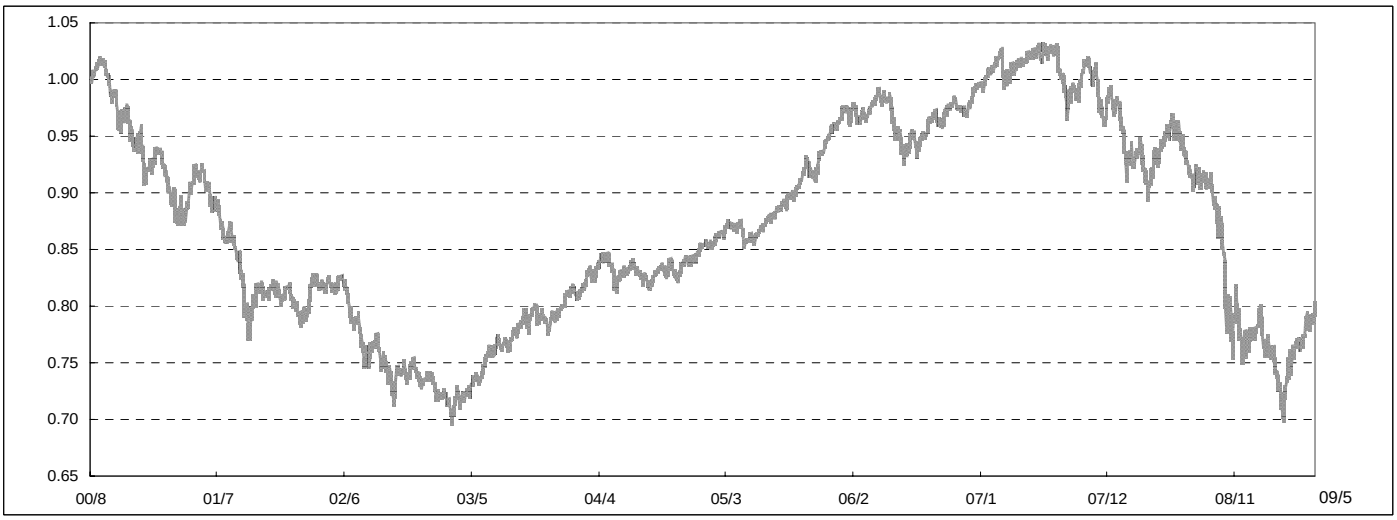
変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2009年5月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 ［ 2009年5月 末日現在 ］

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2009年5月末	2009年4月末	2009年3月末	2009年2月末	2009年1月末	2008年12月末
INDEX	0.792	0.771	0.740	0.731	0.764	0.782
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
騰落率（%）	2.73	8.34	1.95	▲ 17.42	▲ 16.46	▲ 20.77

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目		金額（千円）	比率（%）
現預金・コールローン		629,990	2.0
その他有価証券		30,541,739	98.0
	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）	3,229,723	10.4
	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）	4,861,045	15.6
	アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）	4,692,378	15.1
	アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）	3,153,417	10.1
	アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）	14,605,173	46.9
合計		31,171,729	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。
資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。（株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。）
今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

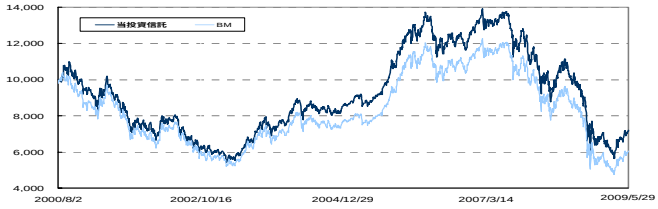
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2009年5月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2009年5月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）（適格機関投資家私募）
【委託会社】　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	7.12%	17.96%	7.27%	▲34.26%	▲40.67%	▲27.82%
BM	7.18%	18.66%	7.56%	▲36.23%	▲43.17%	▲39.44%
差	▲0.05%	▲0.70%	▲0.29%	1.97%	2.50%	11.62%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	電気機器	13.41%
2	輸送用機器	12.34%
3	銀行業	9.66%
4	情報・通信業	6.91%
5	化学	6.82%
6	卸売業	5.64%
7	小売業	5.39%
8	医薬品	5.10%
9	その他業種	33.27%
10	現金等	1.47%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	ﾏｻﾞｰファンド
1	東京証券取引所第一部	94.49%
2	大阪証券取引所第一部	4.04%
3	現金等	1.47%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.74%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.82%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.66%
4	日本電信電話	情報・通信業	2.05%
5	武田薬品工業	医薬品	1.47%
6	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	1.44%
7	キヤノン	電気機器	1.40%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.16%
9	野村ホールディングス	証券、商品先物取引業	1.14%
10	パナソニック	電気機器	1.12%
合計			20.00%
組入銘柄数			455銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

　投資信託の収益率は前月末比＋7．12%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の収益率は、前月末比＋7．18%となりました。
　当月の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、上昇した不動産や総合商社をベンチマーク対比で少なめに保有していたことや、下落した自動車を多めに保有していたことはいずれもマイナスへ寄与しました。個別銘柄では、下落した本田技研工業（7267）を多めに保有していたことや、上昇した三洋電機（6764）やオリックス（8591）を保有していなかったことはいずれもマイナスに寄与しました。
　当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

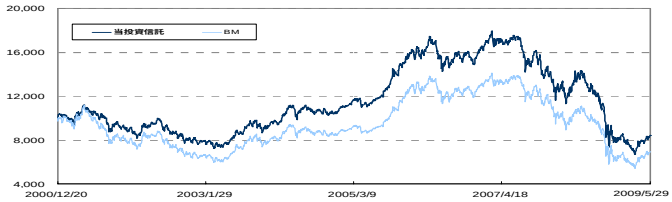
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2009年5月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）（適格機関投資家私募）の運用状況　［ 2009年5月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）（適格機関投資家私募）
【委託会社】　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	7.28%	16.24%	2.55%	▲40.12%	▲45.12%	▲15.52%
BM	7.18%	18.66%	7.56%	▲36.23%	▲43.17%	▲30.36%
差	0.10%	▲2.42%	▲5.01%	▲3.88%	▲1.95%	14.84%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	医薬品	13.13%
2	輸送用機器	11.06%
3	情報・通信業	10.95%
4	電気機器	10.81%
5	小売業	8.35%
6	化学	8.06%
7	銀行業	5.72%
8	食料品	5.49%
9	その他業種	25.13%
10	現金等	1.29%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	ﾏｻﾞｰファンド
1	東京証券取引所第一部	91.85%
2	大阪証券取引所第一部	3.93%
3	ジャスダック証券取引所	1.27%
4	東京証券取引所第二部	1.14%
5	名古屋証券取引所	0.37%
6	大阪証券取引所第二部	0.15%
7	現金等	1.29%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	ﾏｻﾞｰファンド
1	日本電信電話	情報・通信業	3.27%
2	武田薬品工業	医薬品	3.10%
3	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	3.07%
4	日産自動車	輸送用機器	2.61%
5	KDDI	情報・通信業	2.60%
6	アステラス製薬	医薬品	2.46%
7	ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	2.30%
8	トヨタ自動車	輸送用機器	2.22%
9	第一三共	医薬品	1.86%
10	東海旅客鉄道	陸運業	1.83%
合計			25.32%
組入銘柄数			372銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前月末比＋7．28%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の収益率は、前月末比＋7．18%となりました。
当月の日本株式市場は、企業成長度の高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、下落した家庭用品、耐久消費財や電力をベンチマーク対比で少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。個別銘柄では、下落した日立製作所（6501）やアステラス製薬（4503）を多めに保有していたことや、上昇した三菱商事（8058）を保有していなかったことはいずれもマイナスに寄与しました。
当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

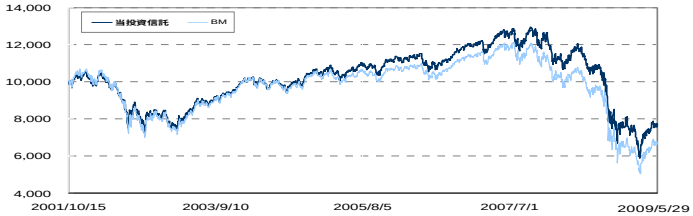
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2009年5月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2009年5月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.61%	16.76%	▲0.01%	▲34.76%	▲29.26%	▲22.96%
BM	3.75%	20.29%	1.75%	▲36.20%	▲35.27%	▲32.60%
差	▲1.14%	▲3.52%	▲1.76%	1.44%	6.00%	9.64%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S＆P500種株価指数*2
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）　（適格機関投資家私募）
【委託会社】　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　セクター別構成比率

	セクター	ﾏｻﾞｰファンド
1	エネルギー	10.34%
2	ソフトウェア・サービス	8.30%
3	テクノロジー・ハードウェア	8.38%
4	ヘルスケア機器・サービス	5.99%
5	メディア	2.46%
6	医薬品・バイオテクノ・ライフ	8.99%
7	運輸	2.11%
8	家庭用品・パーソナル用品	3.49%
9	その他業種	49.12%
10	現金	0.83%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	ﾏｻﾞｰファンド
1	EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	3.75%
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.15%
3	INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.12%
4	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.84%
5	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	各種金融	1.65%
6	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	1.64%
7	AT&T INC	アメリカ	電気通信サービス	1.52%
8	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	1.49%
9	PHILIP MORRIS INTERNATIONAL INC	アメリカ	食品・飲料・タバコ	1.42%
10	CHEVRON CORP	アメリカ	エネルギー	1.37%
合計				18.96%
組入銘柄数				331銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前月末比＋2．61%となりました。一方、ベンチマークであるS＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の収益率は前月末比＋3．75%となりました。当月の米国株式市場は、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。

委託会社独自の業種別では、下落した小売をベンチマーク対比で多めに保有していたことや、上昇した石油、その他金融を少なめに保有していたことはいずれもマイナスへの寄与となりました。個別銘柄では、上昇した各種金融のBank of America Corporationを少なめに保有していたことや、下落した小売のLowe's Companies, Inc.やThe Home Depot, Inc.を多めに保有したいたことはいずれもマイナスへの寄与となりました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

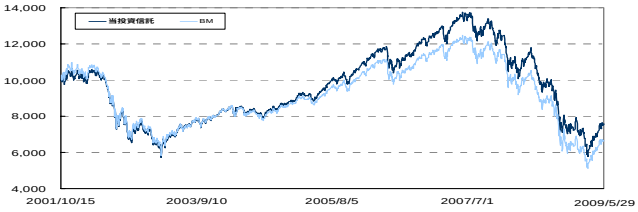
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2009年5月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）（適格機関投資家私募）の運用状況　［ 2009年5月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.91%	16.18%	0.41%	▲33.75%	▲31.13%	▲24.97%
BM	4.51%	17.13%	2.45%	▲34.57%	▲35.42%	▲33.89%
差	0.40%	▲0.95%	▲2.04%	0.81%	4.30%	8.92%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数*3
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）（適格機関投資家私募）
【委託会社】　アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券（適格機関投資家私募）に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国別構成比率

	国名	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	イギリス	28.76%
2	フランス	14.31%
3	スイス	11.84%
4	ドイツ	11.30%
5	オランダ	8.40%
6	イタリア	5.98%
7	スペイン	5.93%
8	スウェーデン	3.44%
9	その他の国	8.98%
10	現金等	1.05%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	11.91%
2	電気通信サービス	10.84%
3	エネルギー	10.69%
4	銀行	10.46%
5	素材	7.86%
6	食品・飲料・タバコ	7.68%
7	資本財	6.96%
8	公益事業	5.71%
9	その他業種	26.86%
10	現金等	1.05%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	2.70%
2	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.38%
3	TELEFONICA S.A.	スペイン	電気通信サービス	2.33%
4	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.31%
5	BP PLC	イギリス	エネルギー	2.25%
6	ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	オランダ	エネルギー	2.24%
7	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.08%
8	SANOFI-AVENTIS	フランス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.97%
9	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	1.95%
10	ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.80%
合計				22.03%
組入銘柄数				268銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前月末比＋4．91%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の収益率は前月末比＋4．51%となりました。当月の欧州株式市場は、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、上昇したその他金融や金属を少なめに保有していたことや、下落した移動体通信を多めに保有していたことはマイナスへの寄与となりました。個別銘柄では、上昇した電気通信サービスのTelenor ASA（ノルウェー）や食品・生活必需品小売りのMetro AG（ドイツ）を多めに保有していたことや、下落した保険のMuenchener Rueckversicherungs－Gesellschaft AG（ドイツ）を少なめに保有していたことはいずれもプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

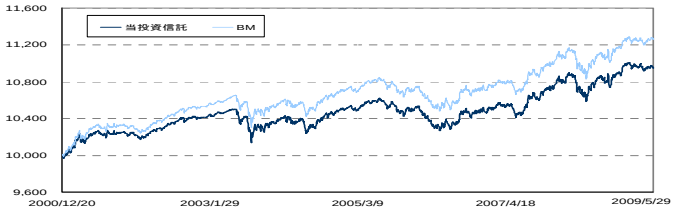
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート （2009年5月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ･日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2009年5月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ･日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ･ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ･日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.02%	▲0.21%	0.56%	2.84%	5.97%	9.58%
BM	0.13%	0.01%	0.92%	3.36%	6.75%	12.73%
差	▲0.15%	▲0.22%	▲0.36%	▲0.51%	▲0.78%	▲3.15%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス（総合[*4]、中期3年以上7年未満）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○ 資産構成

	修正デュレーション	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
公社債	**4.14 年**	**98.97%**
国債	4.84 年	74.64%
地方債	0.00 年	0.00%
特殊債･財投債	1.89 年	6.29%
金融債	0.95 年	0.56%
社債等	2.05 年	17.48%
その他	0.00 年	0.00%
短期資産等[*]	**0.00 年**	**1.03%**
合計	**4.09 年**	**100.00%**

＊　債券先物を含みます。

※「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○ 公社債の格付別構成比率

格付区分	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
AAA	6.32%
AA	85.80%
A	6.73%
BBB	1.15%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

格付基準：
※ 海外格付機関の格付を優先します。
※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

○ 組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付 ムーディーズ	格付 S&P	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	第259回利付国債（10年）	日本	1.500%	2014年3月20日	Aa2	AA	6.97%
2	第257回利付国債（10年）	日本	1.300%	2013年12月20日	Aa2	AA	6.63%
3	第275回利付国債（10年）	日本	1.400%	2015年12月20日	Aa2	AA	6.33%
4	第254回利付国債（10年）	日本	1.400%	2013年9月20日	Aa2	AA	6.19%
5	第252回利付国債（10年）	日本	1.000%	2013年6月20日	Aa2	AA	5.76%
6	第269回利付国債（10年）	日本	1.300%	2015年3月20日	Aa2	AA	5.46%
7	第70回利付国債（5年）	日本	0.800%	2013年3月20日	Aa2	AA	4.53%
8	第285回利付国債（10年）	日本	1.700%	2017年3月20日	Aa2	AA	3.48%
9	第248回利付国債（10年）	日本	0.700%	2013年3月20日	Aa2	AA	3.39%
10	第245回利付国債（10年）	日本	0.900%	2012年12月20日	Aa2	AA	3.24%
合計							51.98%
組入銘柄数							61銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ ポートフォリオの状況

	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
平均複利利回り	1.09%
平均クーポン	1.28%
平均残存期間	4.53

※「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の収益率は前月末比▲0．02%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス（総合、中期3年以上7年未満）は前月末比＋0．13%となりました。
世界経済は幅広く後退色を示す一方で、債券市場においては価格上昇の兆しは見えていません。当投資信託では、新規発行増を懸念し、デュレーションは短めとする戦略を維持しました。保有している物価連動債は、政府の景気刺激策や上昇を始めた原油価格の動きにもかかわらず、大きな動きを示すことはありませんでした。当投資信託ではクレジットの保有については、政府関係機関債を少なめに保有し、円貨建外債を多めに保有することでクレジットのスプレッドの獲得に努めました。
前月同様、遠からず短期ポジションを中立化させる機会が到来するとみています。日本債券市場は、経済指標よりも市場心理やテクニカル主導の市場となっています。経済データは、それほど悪いわけではないものの、景気後退の位置にあることには違いありません。今後、景気の改善傾向の兆しを注視している投資家は少数派となり、いずれどこまで悪化するかに注目が移っていくとみています。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額保険

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は
スタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、
わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc.の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、
委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、
金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利は日興コーディアル証券株式会社に帰属します。また、日興コーディアル証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
***特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。**

○変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。
なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年）

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年　8月　1日	1,000	-506	1,000	-455	-20.77	-2.60
平成12年　9月　1日	1,000	-512	1,000	-461	-21.94	-2.79
平成12年　10月　1日	1,000	-494	1,000	-443	-19.71	-2.50
平成12年　11月　1日	1,000	-478	1,000	-428	-17.89	-2.27
平成12年　12月　1日	1,000	-460	1,000	-411	-15.80	-2.00
平成13年　1月　1日	1,000	-444	1,000	-395	-13.94	-1.77
平成13年　2月　1日	1,000	-454	1,000	-404	-15.51	-2.00
平成13年　3月　1日	1,000	-425	1,000	-375	-11.90	-1.52
平成13年　4月　1日	1,000	-408	1,000	-359	-9.92	-1.27
平成13年　5月　1日	1,000	-426	1,000	-377	-12.79	-1.68
平成13年　6月　1日	1,000	-420	1,000	-371	-12.25	-1.62
平成13年　7月　1日	1,000	-409	1,000	-360	-11.04	-1.47
平成13年　8月　1日	1,000	-386	1,000	-338	-8.42	-1.12
平成13年　9月　1日	1,000	-354	1,000	-306	-4.49	-0.59
平成13年　10月　1日	1,000	-315	1,000	-267	0.40	0.05
平成13年　11月　1日	1,000	-328	1,000	-279	-1.66	-0.22
平成13年　12月　1日	1,000	-332	1,000	-283	-2.57	-0.35
平成14年　1月　1日	1,000	-331	1,000	-283	-2.87	-0.39
平成14年　2月　1日	1,000	-308	1,000	-260	-0.22	-0.03
平成14年　3月　1日	1,000	-314	1,000	-266	-1.33	-0.18
平成14年　4月　1日	1,000	-325	1,000	-277	-3.12	-0.44
平成14年　5月　1日	1,000	-319	1,000	-271	-2.70	-0.39
平成14年　6月　1日	1,000	-321	1,000	-272	-3.26	-0.47
平成14年　7月　1日	1,000	-289	1,000	-241	0.48	0.07
平成14年　8月　1日	1,000	-261	1,000	-211	3.97	0.57
平成14年　9月　1日	1,000	-258	1,000	-208	3.97	0.58
平成14年　10月　1日	1,000	-233	1,000	-183	6.93	1.01
平成14年　11月　1日	1,000	-230	1,000	-180	6.91	1.02
平成14年　12月　1日	1,000	-241	1,000	-191	5.06	0.76
平成15年　1月　1日	1,000	-218	1,000	-167	7.81	1.18
平成15年　2月　1日	1,000	-196	1,000	-144	10.39	1.57
平成15年　3月　1日	1,000	-190	1,000	-137	10.82	1.66

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績(%)	年複利(%)
	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	-186	1,000	-133	10.95	1.70
平成15年 5月 1日	1,000	-198	1,000	-146	8.69	1.38
平成15年 6月 1日	1,000	-209	1,000	-158	6.82	1.11
平成15年 7月 1日	1,000	-223	1,000	-173	4.58	0.76
平成15年 8月 1日	1,000	-231	1,000	-180	3.25	0.55
平成15年 9月 1日	1,000	-236	1,000	-186	2.11	0.36
平成15年 10月 1日	1,000	-237	1,000	-187	1.65	0.29
平成15年 11月 1日	1,000	-245	1,000	-195	0.26	0.05
平成15年 12月 1日	1,000	-241	1,000	-191	0.42	0.08
平成16年 1月 1日	1,000	-248	1,000	-199	-0.94	-0.17
平成16年 2月 1日	1,000	-256	1,000	-208	-2.34	-0.44
平成16年 3月 1日	1,000	-264	1,000	-216	-3.72	-0.72
平成16年 4月 1日	1,000	-274	1,000	-226	-5.27	-1.04
平成16年 5月 1日	1,000	-271	1,000	-223	-5.31	-1.07
平成16年 6月 1日	1,000	-262	1,000	-213	-4.48	-0.91
平成16年 7月 1日	1,000	-270	1,000	-221	-5.77	-1.20
平成16年 8月 1日	1,000	-255	1,000	-206	-4.24	-0.89
平成16年 9月 1日	1,000	-253	1,000	-204	-4.43	-0.95
平成16年 10月 1日	1,000	-252	1,000	-203	-4.58	-1.00
平成16年 11月 1日	1,000	-247	1,000	-198	-4.37	-0.97
平成16年 12月 1日	1,000	-255	1,000	-206	-5.63	-1.28
平成17年 1月 1日	1,000	-264	1,000	-216	-7.21	-1.68
平成17年 2月 1日	1,000	-262	1,000	-214	-7.30	-1.73
平成17年 3月 1日	1,000	-272	1,000	-224	-8.76	-2.13
平成17年 4月 1日	1,000	-270	1,000	-222	-8.93	-2.22
平成17年 5月 1日	1,000	-256	1,000	-207	-7.54	-1.90
平成17年 6月 1日	1,000	-263	1,000	-214	-8.67	-2.24
平成17年 7月 1日	1,000	-270	1,000	-222	-9.90	-2.63
平成17年 8月 1日	1,000	-277	1,000	-229	-11.09	-3.02
平成17年 9月 1日	1,000	-280	1,000	-232	-11.75	-3.28
平成17年 10月 1日	1,000	-302	1,000	-255	-14.69	-4.24
平成17年 11月 1日	1,000	-295	1,000	-248	-14.22	-4.19
平成17年 12月 1日	1,000	-311	1,000	-284	-16.44	-5.00
平成18年 1月 1日	1,000	-322	1,000	-295	-17.94	-5.62
平成18年 2月 1日	1,000	-329	1,000	-302	-19.09	-6.16

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績(%)	年複利(%)
	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)	保険金額(万円)	変動保険金額(万円)		
平成18年　3月　1日	1,000	-323	1,000	-296	-18.66	-6.16
平成18年　4月　1日	1,000	-326	1,000	-299	-19.39	-6.58
平成18年　5月　1日	1,000	-322	1,000	-295	-19.23	-6.69
平成18年　6月　1日	1,000	-296	1,000	-268	-16.46	-5.82
平成18年　7月　1日	1,000	-296	1,000	-268	-16.74	-6.09
平成18年　8月　1日	1,000	-293	1,000	-265	-16.75	-6.27
平成18年　9月　1日	1,000	-304	1,000	-296	-18.36	-7.11
平成18年　10月　1日	1,000	-302	1,000	-291	-18.42	-7.35
平成18年　11月　1日	1,000	-303	1,000	-290	-18.80	-7.75
平成18年　12月　1日	1,000	-301	1,000	-286	-18.91	-8.04
平成19年　1月　1日	1,000	-313	1,000	-296	-20.49	-9.05
平成19年　2月　1日	1,000	-318	1,000	-299	-21.33	-9.77
平成19年　3月　1日	1,000	-316	1,000	-296	-21.48	-10.19
平成19年　4月　1日	1,000	-314	1,000	-291	-21.48	-10.56
平成19年　5月　1日	1,000	-317	1,000	-292	-22.08	-11.29
平成19年　6月　1日	1,000	-321	1,000	-294	-22.84	-12.16
平成19年　7月　1日	1,000	-317	1,000	-290	-22.65	-12.54
平成19年　8月　1日	1,000	-302	1,000	-274	-21.31	-12.25
平成19年　9月　1日	1,000	-289	1,000	-261	-20.14	-12.06
平成19年　10月　1日	1,000	-297	1,000	-269	-21.34	-13.41
平成19年　11月　1日	1,000	-296	1,000	-268	-21.49	-14.17
平成19年　12月　1日	1,000	-273	1,000	-245	-19.33	-13.34
平成20年　1月　1日	1,000	-267	1,000	-239	-19.00	-13.82
平成20年　2月　1日	1,000	-230	1,000	-201	-15.29	-11.70
平成20年　3月　1日	1,000	-232	1,000	-203	-15.78	-12.84
平成20年　4月　1日	1,000	-206	1,000	-177	-13.32	-11.53
平成20年　5月　1日	1,000	-232	1,000	-203	-16.38	-15.22
平成20年　6月　1日	1,000	-239	1,000	-210	-17.42	-17.42

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成21年5月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。